

## 前略

皆様、益々ご清祥の事と存じます。早いもので支援を卒業し 2 ヶ月が経ちました。お陰様で、順調に継続登校をしています。

今、放課後クラブのバスケット部に入っています。休日は、友達の家で電話をかけ、遊びに行っています。公園でスケボーをして、泥だらけになり、膝を擦りむいて帰ってきた姿を見て、とても嬉しかったです。

以前は、待ちの姿勢で、自分から行動せず、友達が誘ってきたら遊ぶと言う具合でしたから、とても積極的になりました。

朝は、声を掛けなくても、自分から起きます。時間が切迫したときは、走って学校へ行きます。たまに忘れ物をしたり、掃除当番を忘れて遊びにいった先生に注意されたりしています。本当に年相応の子供らしく成長致しました。

先日、外国に転校した友達が、短期間だけ、日本の学校に通う事になったとき、その子が、気後れして学校へ行きたがらないと聞くと、自分から声をかけて遊びに誘ったらしいです。その子のお母様が大変御喜びになって、御礼の電話がありました。他のお友達にも配慮できるくらい心の余裕が出てきました。

思えば、昨年 6 月から突然不登校になり、家族全員が混乱致しました。

朝、起き上がる事さえできなくなり、足が痛い、おなかが痛い、と訴え、外に出なくなり、顔色は悪く、することといえば、毎日ゲームばかりして過ごしました。夜になると、「もう駄目だ。どうしていいかわからない。」とか悲観的な言葉ばかりが出て、不眠になり、生活のリズムが崩れました。

病気だと思った私たちは、総合病院、小児科、心療内科、学校のカウンセリング、教育支援センターなどあらゆる手を尽くしましたが状況は変わりませんでした。心配してくれた友達が、訪問や手紙、電話をくれましたが、こう着状態が続きました。

私たちは、食事ものどを通らず、精神的にも追いつめられ、また夫婦間もうまく行かなくなり将来を悲観しました。

「俺の人生、もう終わりや。死にたい。」と子供に言われた時は、私は、「そうかも。」と心の中で思い、いっそ一緒に死んでしまおうかとも考えました。

そのような中、不登校についての書籍の中から水野先生の本と出会いがありました。この出会いで、一気に流れが変わりました。

先生のご指導を忠実に守り、迷ったときは本を読み返し対応を探りました。

「親の会」に出席し、泣いてしまった私を、出席されていたみなさんは、「今が一番辛いよね。でも、先生を信じて頑張って。」と励まして下さいました。経験された方々の言葉の重みを感じ、本当に心強かったです。

先生方を始め、沢山のみなさんに助けて頂きました。

感謝しても感謝しきれないです。本当に有難うございました。

この出会いがなければ、今の幸せはありません。

もし、ご指導頂かなくて、学校に戻れたとしても、それは解決したことにはならないことも今は理解できます。そして、またいつくるかわからない不安を抱きながらに永遠に闇の中にいたと思います。

私たちにとって、不登校から抜け出した日は、「再出発の日」となり、「先生方への感謝の日」となりました。

支援は卒業させて頂きましたが、完璧になったとは思っていません。

これから、また色々な問題、困難が待ち受けていると思います。しかし、以前のように、過干渉になったり、迷う事はありません。

本来何をすべきかをしっかり学びました。疑問に思う事があれば、「親の会」で先輩方々に話を聞くことができます。自分を律し、前に進む事が出来ます。

親も子も不完全なままで成長しなくて良かったと思います。

今となれば、不登校は、私たちに取って「必然」であったかと思います。

子供が大人になってからは、取り返しがつかなかったと思います。

今まさに不登校で悩んでいるご家族の皆様は、良い出会いがあり、一刻も早く幸せを取り戻して頂きたいと心から願います。

本当に有難うございました。次回、「親の会」でお会いできるのを楽しみにしています。

## 追記

以下、主人のコメントです。

正直なところ半信半疑でしたが、ネットや本からの情報では限界で、なす術無し  
の状況であったこともあり、ワラにもすがる思いでとにかく専門家に任せよ  
うと考えました。

言われる通りに「冷ます対応」を実践し、言われる通りに行動した結果が、  
普通に登校できる元の生活に戻りました。

しかも、不登校前よりも強くなってくれました。

振り返ってみると、先生方の的確な役割分担で行った登校刺激の数々の積み重  
ねがあったからこそだと思います。

父親としての本当の子離れができるメドがたったと考えています。

同じ境遇の方へのメッセージとしては、とにかく先生方を信じ、任せ、従うこ  
と、これが遠回りのようではありますが、実際は登校への近道だと思います。

敬具